

# オウム対策住民協議会ニュース

烏山地域オウム  
真理教(現アレフ)  
対策住民協議会

## 「団体規制法」存続と 「観察処分」期間更新の署名

### オウム真理教(ひかりの輪・アレフ)の活動を規制する 署名への一層の協力を!!

一人が、二人の方にお話してください。



オウム真理教が烏山地域に突然集団居住してきた2000年12月、住民は「なぜ私たちが住んでる地域に」と、とまどいと驚きを隠せませんでした。それがやがて恐怖心が変わっていききました。オウム真理教が居住している、マンション(麻原の呪文)を夜中まで大音量で流すので眠れない「カレの腐ったような臭いがする」「信者が突然家に入った」など多くの苦情が



寄せられました。

烏山地域住民は抗議と怒りの声をあげ、翌年の1月にオウムと対決する「烏山地域オウム真理教対策住民協議会」を立ち上げました。以来7年半に亘る闘いがはじまりました。その後、地下鉄サリン事件をはじめ、幾多の凶暴なテロ事件で27名の尊い命を奪った、元教祖麻原彰晃(本名松本智津夫)の死刑判決が2006年9月に確定し、2007年4月には「ひかりの輪」

と「アレフ」(2008年6月アレフより改称)に内部分裂するなど、さまざまな変化がありました。しかし、ただひとつオウム真理教の本質は変わることなく、元教祖麻原彰晃の唱えた、殺人を勧める内容を含む教義を、現在も活動の規範にしています。又、今の信者は、地下鉄サリン事件以前からの信者が7割近くを占め、その中の多くが中堅幹部という恐ろしい事実が現実です。住民協議会は2003年、2006年に「観察処分」期間更新を、2004年に「団体規制法」存続をみなさんの協力で勝ち取ってきました。



これまで活動を規制されていたオウム真理教は「野に放たれたオカミ」のごとく、凶暴な牙をむくでしょう。何としても最悪の事態だけは回避

しなければなりません。私達住民ができるもつとも有効な手段が、署名を集めることではないでしょうか。前回、更新時に公安審査委員会は「署名の力が大きかった」と評価しました。現在なかなか厳しい署名状況ですが、9月には前回以上の署名を集め、10月には国に提出したいと考えています。安心、安全な烏山地域を守るためご協力をお願いします。

### 平成20年度 烏山地域オウム真理教(現アレフ)対策住民協議会総会

平成20年度のオウム真理教(現アレフ)対策住民協議会総会が、6月16日、烏山総合支所第2会議室にて、協議会からは会長・名誉会長はじめ多くの会員が参加し、来賓として区から平谷副区長・危機管理室長・支所長などが出席して開催された。19年度の事業・会計・監査の報告と、20年度の事業・予算の各計画が議事であった。事業の実績と計画では、実行委員会を構成する事務局、広報部会、署名・募金部会からそれぞれ報告があった。事務局からは、協議会、実行委員会、各部会の定例的な開催が協議会活動の基礎であり、また、365日の監視活動、ニュースの毎月の発行や学習会の年2回の開催、署名活動と国への要請活動が、協議会活動の大きな柱として紹介された。さらに、来年に見直し期限がくる「観察処分」の期間更新を求める署名活動が今年のビッグイベント



署名・募金活動の地域拡大が報告された。これら事業報告や計画、会計および監査報告や予算計画はすべて、大きな拍手で承認された。また、いまだ活動しているオウムの15都道府県にわたる31拠点施設の情報も報告された。そして、各地域の住民協議会間の連携強化をめざすことや、観察処分期間更新の署名用紙が各人に配布され、草の根の署名活動を広げることが、確認された。



## 野田市オウム施設取材記

6月26日、前日の雨がまだ残っている中、野田市に新しくできたオウム施設の取材に出かけた。いつもの通り、飛び込み取材だ。高速を柏インターでおり、16号線の道沿いに注意を払いながら野田市内に向けて車を走らせたが、周りは工場やガソリンスタンド、新興宗教の駐車場や体育館で、すべてがドデカイ。住所だけを頼りにここでオウム施設を探しだすのは難しいと、工場わきにあった小さい事務所に入り、オウムの施設が近くにないかを尋ねた。事務員は知っていた。オウムが引っ越してきたのは市のチラシを見てはじめて知ったと、場所を細かく教えてくれた。

教えられた建物は、周りの大きな建物群に隠れてしまうほど小さな二階建てで、すぐ隣の小さな建物と対をなしていた。窓にはカーテンがひかれ中は窺い知れない。郵便受けは「宝樹社」となっており、オウムの片鱗も見受けられない。隣で伺い、ようやくオウムの施設と確認できた。隣の方は、「彼らは去年の夏に引っ越してきたが、オウムとは気が付かなかった。暮れに、公安調査庁の立入検査や市のチラシでオウムと知った。夜中に、今ならマントラと思える妙な声したり、車の出入りが激しかったりしたが、大きなもめごとはなかった。当初は数人位、そのうち10人前後になり、特に休日前日は多い。建物は、競売物件を買い取ったものときいている。」など、仕事の合間に色々教えてくれた。

市がオウムを掴んでいるとの情報で、16号線をさらに進んで市役所に向かった。事前連絡もなく伺ったが、担当の市民生活課が対応してくれた。このオウム施設は、最初は

食品班、その後はメディア班も使っているとのこと等々、隣の方の情報も確認できた。野田市のオウムへの対応として以下を説明してくれた。

- ① 情報の収集(公安調査庁との連絡、市町村連絡会への参加)
- ② 情報提供(自治会を通した市民への情報提供)
- ③ 防犯パトロールの実施(月～金の週5日1日5時間、警察OBが実施)

立入検査当日に、オウムが来ていたのを公安調査庁の1本の電話で知り、即座に自治会長に連絡をいれて周知したり、都度、情報提供チラシを配るなど、市の動きはスバヤイ。また、仕事の合間に嫌がらずお話を聞かせてくれたお隣の方や、取材の取っ掛かりになってくれた事務員の方。今回の取材は野田市への好印象を大きく残した。オウムは、車社会やハイウェイの盲点を突いて施設を増やしていると感じた取材であった。



野田市のオウム真理教施設

## 各種イベント・お祭りでの募金にご協力ください。

各地域に出向き、オウム真理教と対決するための資金のご協力をいただいている活動も7年目になります。

「オウムに負けないでガンバッテね!!」「住民協議会があるから安心してます」「永い間ご苦労さま、少ないけど募金します」という励ましの言葉や、様々な出合いがあるのでこれまで続けてこれました。

新聞、テレビ、週刊紙などへのオウム真理教(ひかりの輪・アレフ)に関する記事や、画像の露出も、一時に比べれば極端に少なくなりました。それに伴い、オウム真理

教への関心も薄れていくことへの危機感もあります。

住民協議会の募金活動は、イベントなど、たくさんの皆さんが集まる場所で行動することによって、住民協議会の活動に関心を持っていただく事と、活動資金を集める事につながると考えています。

各地域のイベント、お祭りの関係者の皆さん、今年もよろしくお願ひします。地域住民の皆さん、募金活動をしている姿を見ましたら、ご協力よろしくお願ひいたします。

## 住民協議会活動報告

6月26日(木) 千葉県野田市オウム施設へ広報取材  
7月 3日(木) 事務局会議  
7月 7日(月) 「協議会ニュース77号」初校正

7月14日(月) 「協議会ニュース77号」再校正  
7月16日(水) 協議会学習会  
7月18日(金) 実行委員会  
7月21日(月) 「協議会ニュース77号」発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。